



2025年3月期第2四半期 (中間期) 決算説明会

2024年11月28日

 **日本特殊塗料株式会社**
(証券コード 4619 東証スタンダード)

目次

1. 2025年3月期 第2四半期決算概要
2. 2025年3月期 通期業績予想の概要
3. 当社の事業概要
4. 今後の成長戦略

<参考資料>

1. 会社概要
2. 主要な経営指標の推移

1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(1) 2025年3月期 第2四半期決算サマリー

① 連結損益計算書 <前期比>

単位：百万円

	2024/3月期 第2四半期		2025/3月期 第2四半期		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	31,348	—	32,567	—	+1,219	+3.9%
売上原価	25,016	79.8	25,677	78.8	+660	+2.6%
販売費及び 一般管理費	4,926	15.7	4,972	15.3	+46	+0.9%
営業利益	1,404	4.5	1,916	5.9	+512	+36.4%
経常利益	2,590	8.3	2,980	9.2	+389	+15.0%
親会社株主に帰属 する中間純利益	1,798	5.7	2,114	6.5	+315	+17.6%
1株当たり 中間純利益	82.71円	—	97.21円	—	+14.50円	—

1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(1) 2025年3月期 第2四半期決算サマリー

②連結損益計算書 <計画比>

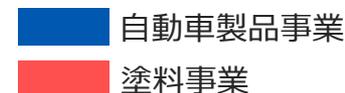
単位：百万円

	2025/3月期 第2四半期		2025/3月期 第2四半期		計画比	
	8月修正計画	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	31,500	-	32,567	-	+1,067	+3.4%
営業利益	1,550	4.9	1,916	5.9	+366	+23.7%
経常利益	2,750	8.7	2,980	9.2	+230	+8.4%
親会社株主に帰属 する中間純利益	1,900	6.0	2,114	6.5	+214	+11.3%
1株当たり 中間純利益	87.39円	-	97.21円	-	+9.82円	-

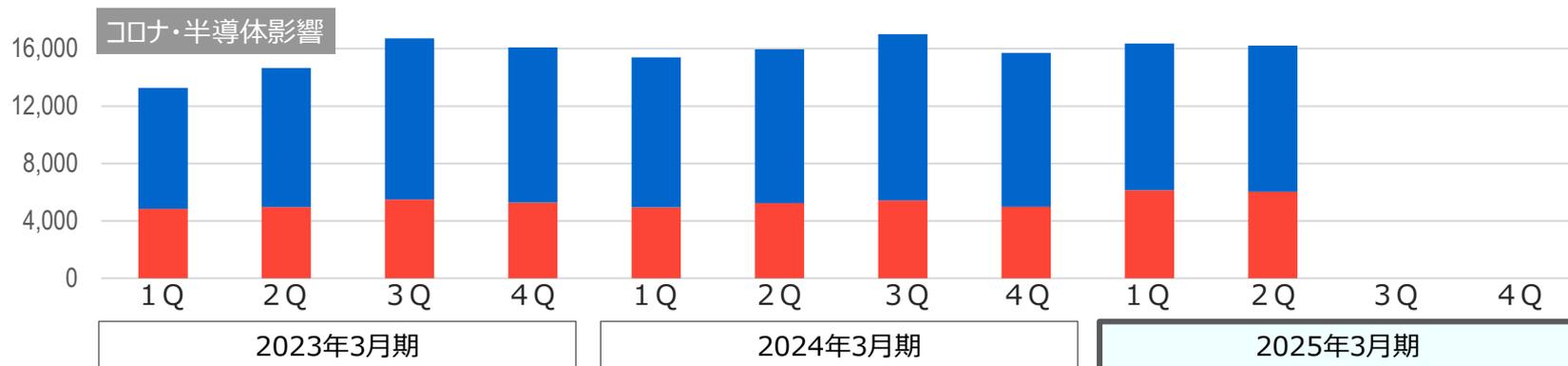
1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(1) 2025年3月期 第2四半期決算サマリー

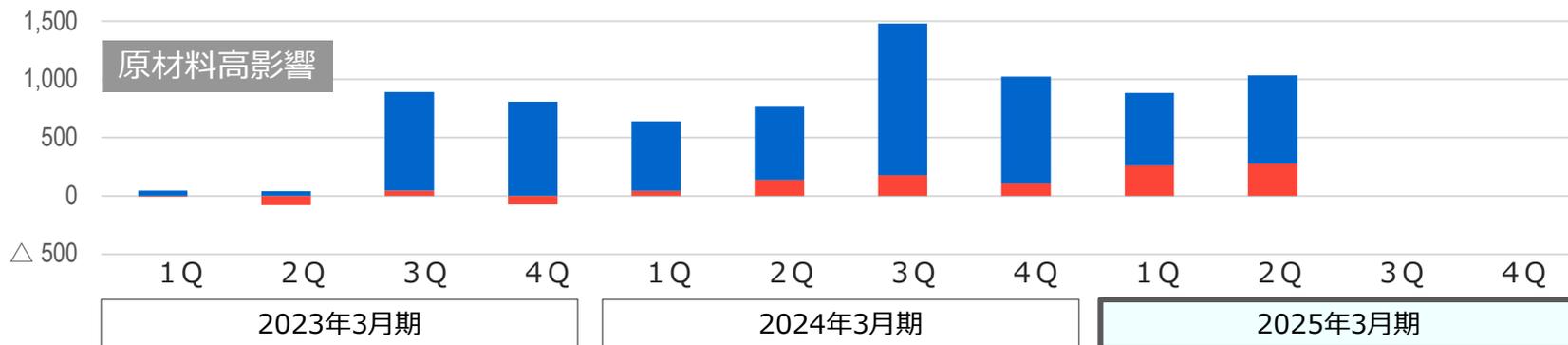
③ 連結業績の推移 (直近3期 四半期推移)



■ 売上高 (単位: 百万円)



■ 営業利益 (セグメント利益) (単位: 百万円)



1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(1) 2025年3月期 第2四半期決算サマリー

④売上高構成比（セグメント / 主要製品別）

塗料事業

自動車製品事業

内外装・屋根用塗料 1.8%

塗り床材・舗装材 4.6%

防水材 8.7%

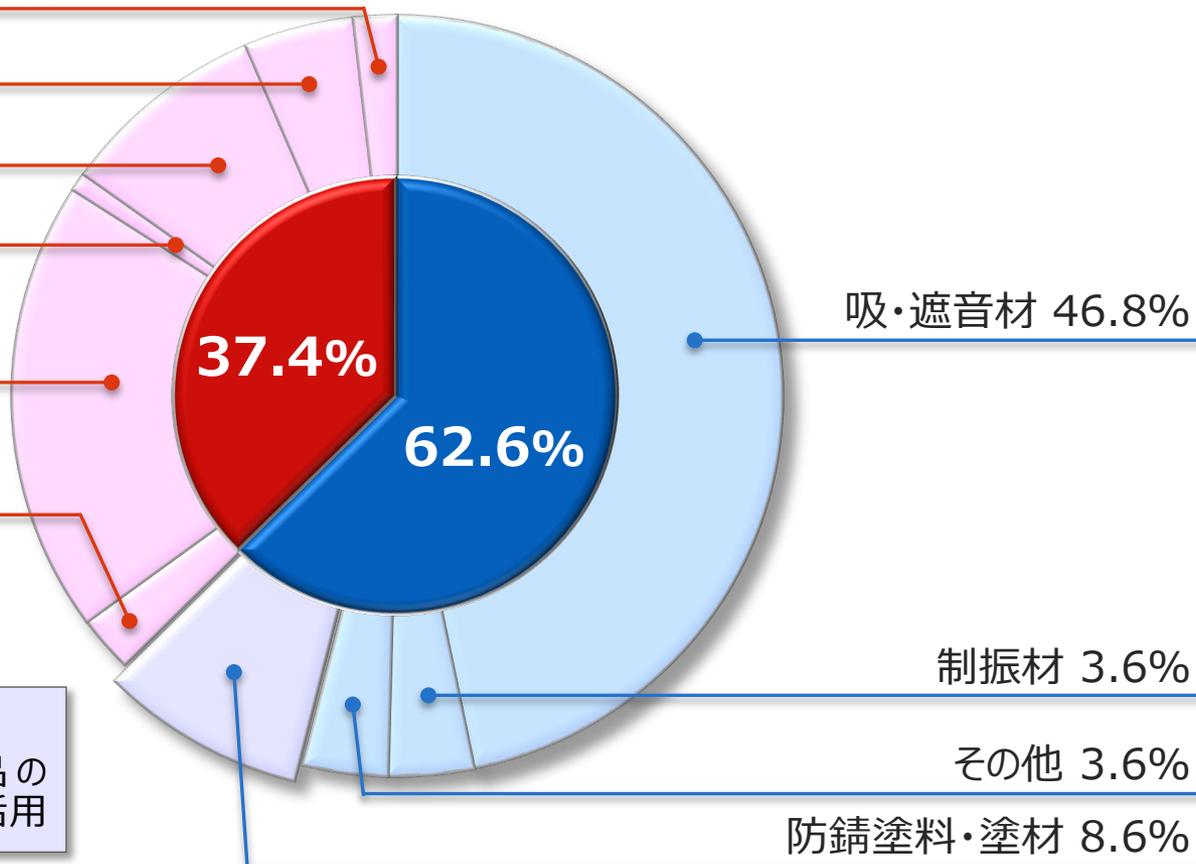
航空機用塗料 0.8%

請負工事 19.2%

その他 2.3%

防錆塗料・塗材

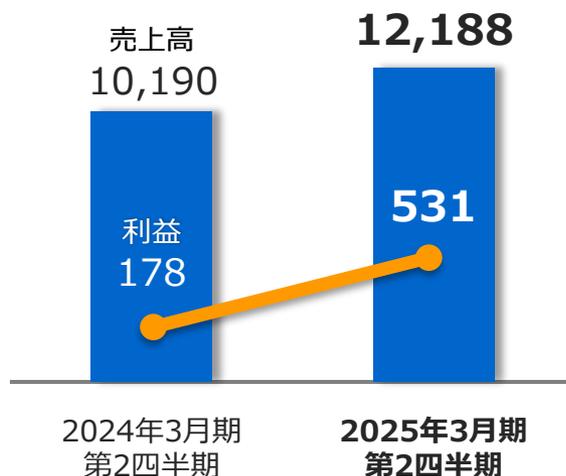
塗料 / 自動車製品の
技術・知見を共有・活用



1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(2) セグメント別の状況

① 塗料関連事業



単位：百万円

	24/3月期 第2四半期	25/3月期 第2四半期	増減率
売上高	10,190	12,188	+19.6%
セグメント利益	178	531	+198.4%
(利益率)	(1.7%)	(4.4%)	

【売上高】

- ・塗料 前期比+4.5%
主力の防水材・床材を中心に建築・構築物用塗料は堅調に推移
- ・工事関連 前期比+37.9%
集合住宅大規模改修工事等の工事関連売上が増収をけん引

【セグメント利益】

- ・製品の販売価格見直し等により、収益力は向上
(要因分析は、次頁参照)

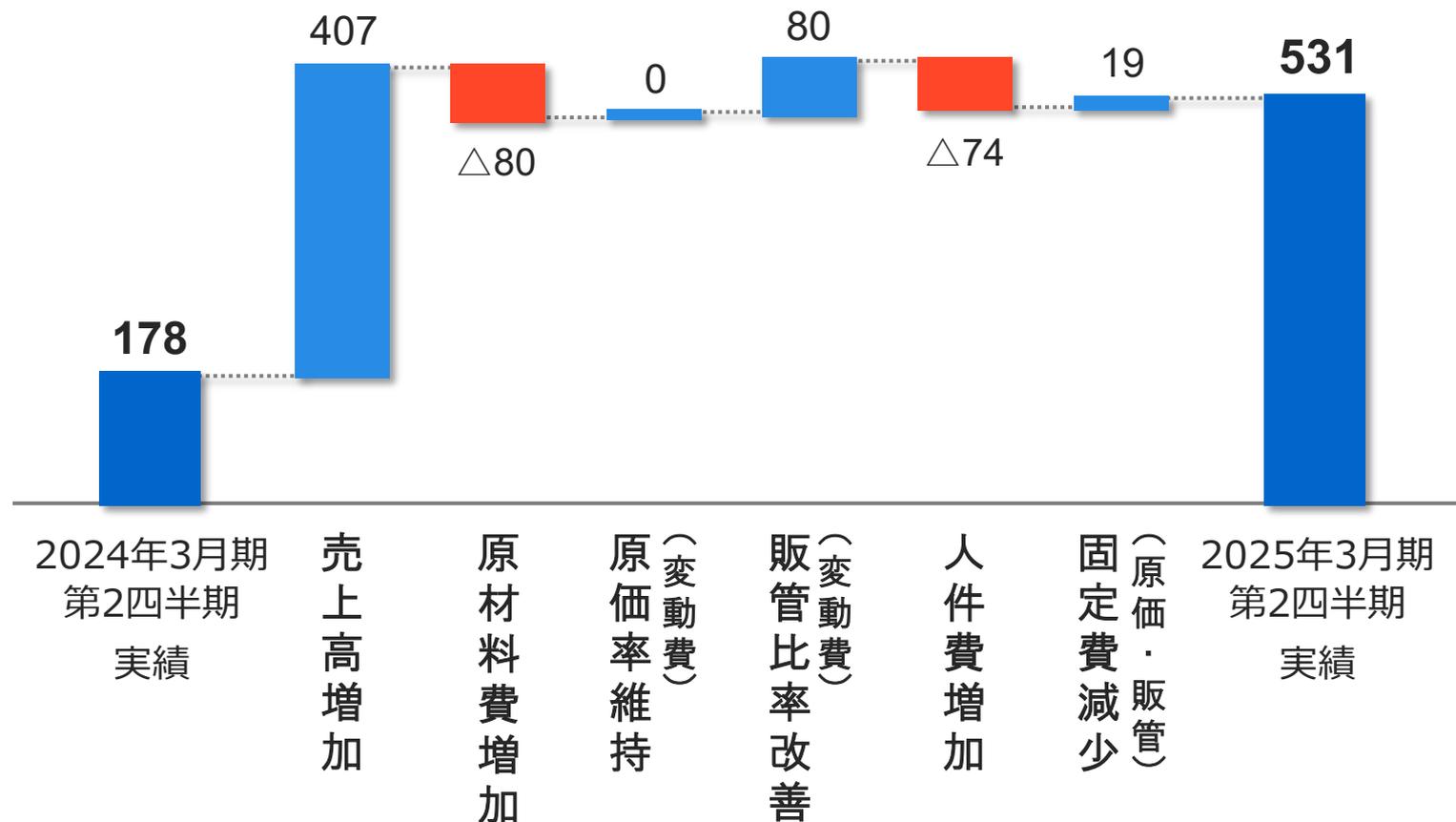
1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(2) セグメント別の状況

① 塗料関連事業

【利益増減要因分析】

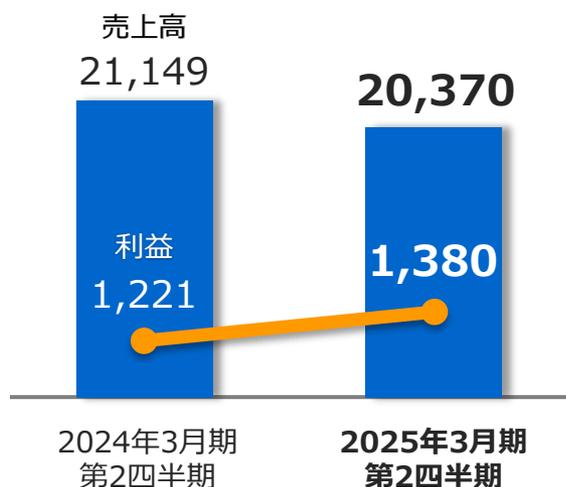
(単位：百万円)



1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(2) セグメント別の状況

②自動車製品関連事業



単位：百万円

	24/3月期 第2四半期	25/3月期 第2四半期	増減率
売上高	21,149	20,370	△3.7%
セグメント利益	1,221	1,380	+13.0%
(利益率)	(5.8%)	(6.8%)	

【売上高】

- ・自動車の国内生産は一時的に低迷
一部車種の生産停止や台風に伴う稼働停止等が影響
- ・海外では、中国を中心とした日本車販売減少の影響

【セグメント利益】

- ・生産体制の効率化・合理化、継続的な原価低減や経費削減により、収益性が向上
(要因分析は、次頁参照)

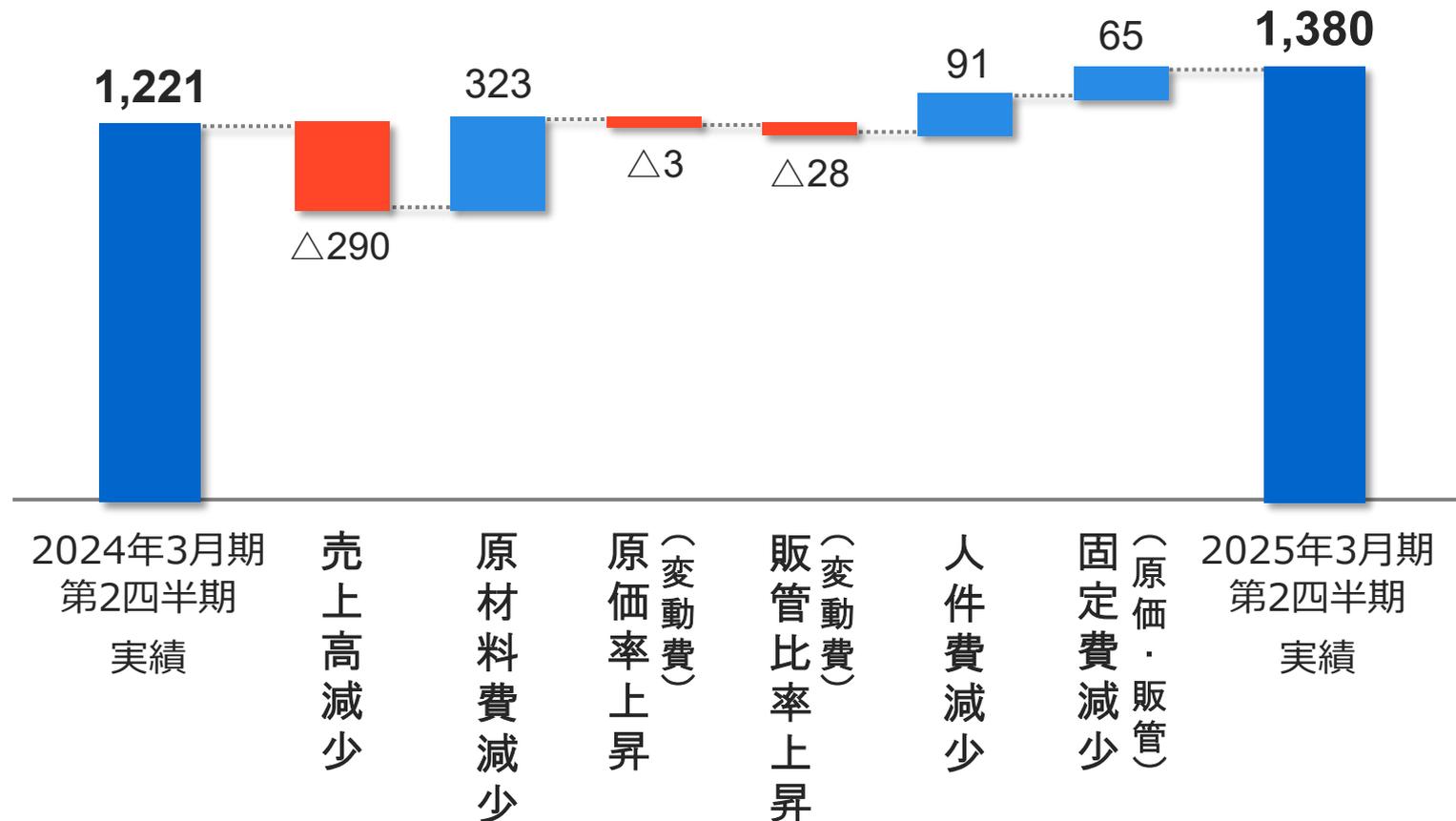
1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(2) セグメント別の状況

②自動車製品関連事業

【利益増減要因分析】

(単位：百万円)



1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

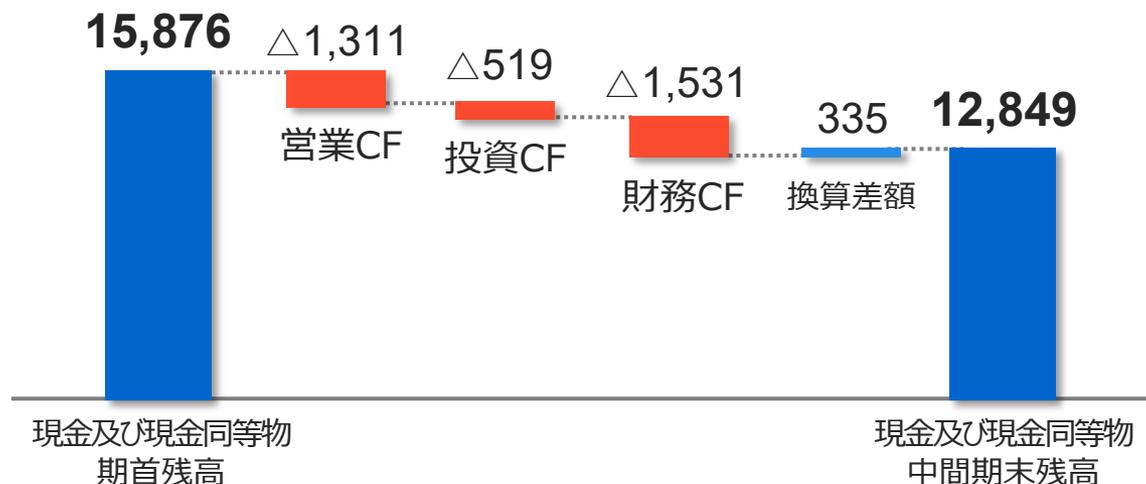
(3) 連結貸借対照表

単位：百万円

	2024/3月期 期末		2025/3月期 第2四半期		前期比 増減額
	実績	構成比	実績	構成比	
流動資産	38,555	44.1	35,282	41.9	△3,273
固定資産	48,900	55.9	49,018	58.1	+117
有形固定資産	22,422	25.6	22,126	26.2	△296
無形固定資産	1,236	1.4	1,295	1.5	+59
投資その他の資産	25,241	28.9	25,595	30.4	+353
資産合計	87,456	100.0	84,300	100.0	△3,155
流動負債	21,405	24.5	16,518	19.6	△4,887
固定負債	6,485	7.4	5,757	6.8	△728
負債合計	27,890	31.9	22,275	26.4	△5,615
株主資本	42,608	48.7	44,185	52.4	+1,577
その他の包括利益累計額	10,789	12.3	11,391	13.5	+602
非支配株主持分	6,168	7.1	6,447	7.7	+279
純資産合計	59,565	68.1	62,025	73.6	+2,459

1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書



単位：百万円

	24/3月期 第2四半期	25/3月期 第2四半期	前期比増減
現金及び現金同等物の期首残高	10,853	15,876	+5,023
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,781	△ 1,311 ※	△5,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	822	△ 519	△1,341
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,810	△ 1,531	+1,279
現金及び現金同等物に係る換算差額	+335	+335	0
現金及び現金同等物の中間期末残高	12,982	12,849	△133

※営業活動キャッシュ・フローは、支払サイト短縮（下請法対応）等で一時的にマイナス

2. 2025年3月期 通期業績予想の概要

(1) 2025年3月期 通期業績予想サマリー (2024.11.13 修正)

単位：百万円

	2024/3月期		2025/3月期		前期比	
	実績	構成比	業績予想	構成比	増減額	増減率
売上高	64,693	—	63,700	—	△993	△1.5%
営業利益	3,905	6.0	3,250	5.1	△655	△16.8%
経常利益	5,963	9.2	4,850	7.6	△1,113	△18.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,947	6.1	3,400	5.3	△547	△13.9%
1株当たり 当期純利益	181.57円	—	156.34円	—	△25.23円	—

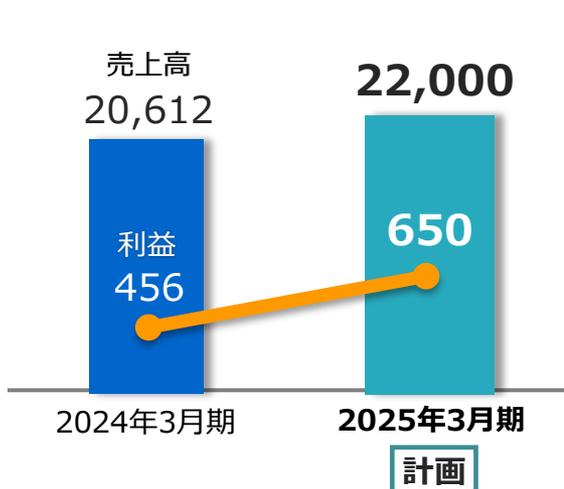
※2025/3月期見込

持分法投資利益 約 12 億円
 想定為替レート 1ドル = 145円

2. 2025年3月期 通期業績予想の概要

(2) セグメント別の状況 (2024.11.13 修正)

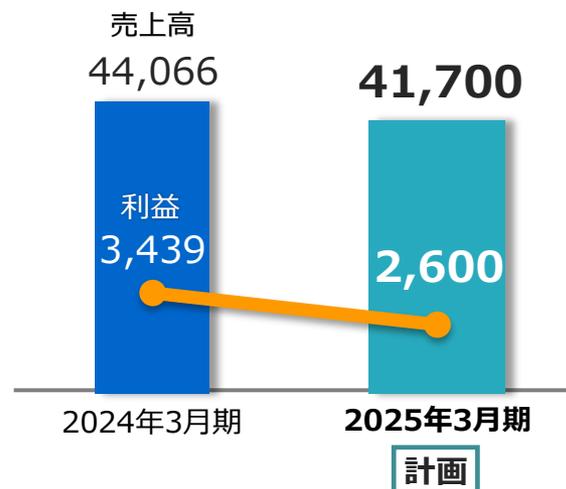
<塗料関連事業>



単位：百万円

	2024年 3月期	2025年 3月期	増減率
売上高	20,612	22,000	+6.7%
セグメント利益	456	650	+42.2%
(利益率)	(2.2%)	(3.0%)	

<自動車製品関連事業>



単位：百万円

	2024年 3月期	2025年 3月期	増減率
売上高	44,066	41,700	△5.4%
セグメント利益	3,439	2,600	△24.4%
(利益率)	(7.8%)	(6.2%)	

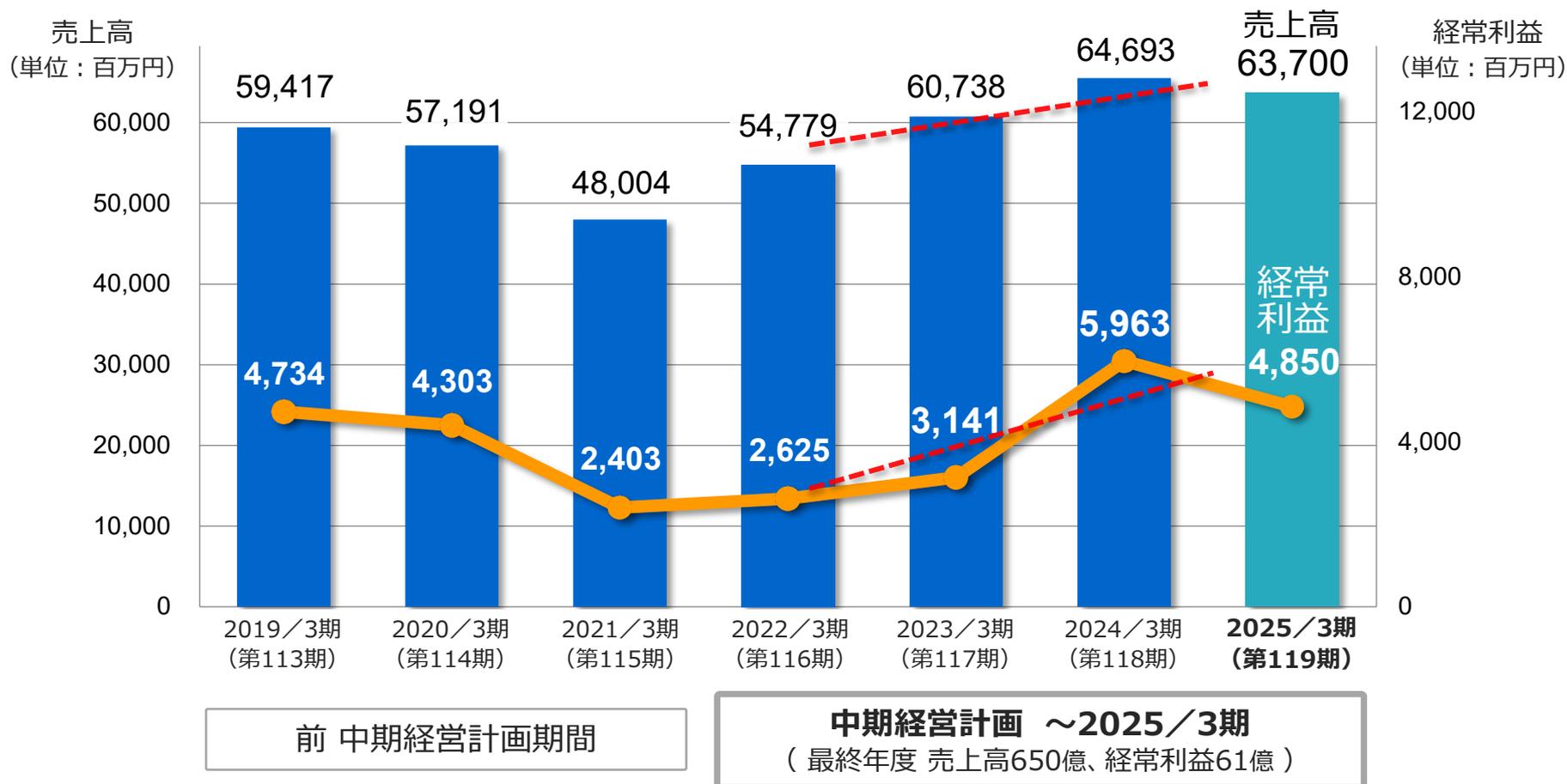
※自動車製品関連事業

生産台数減・受注車種の生産切替り時期の影響 + 価格協力等による利益率低下

2. 2025年3月期 通期業績予想の概要

(3) 中期経営計画 業績目標の修正 (2024.11.13 修正を反映)

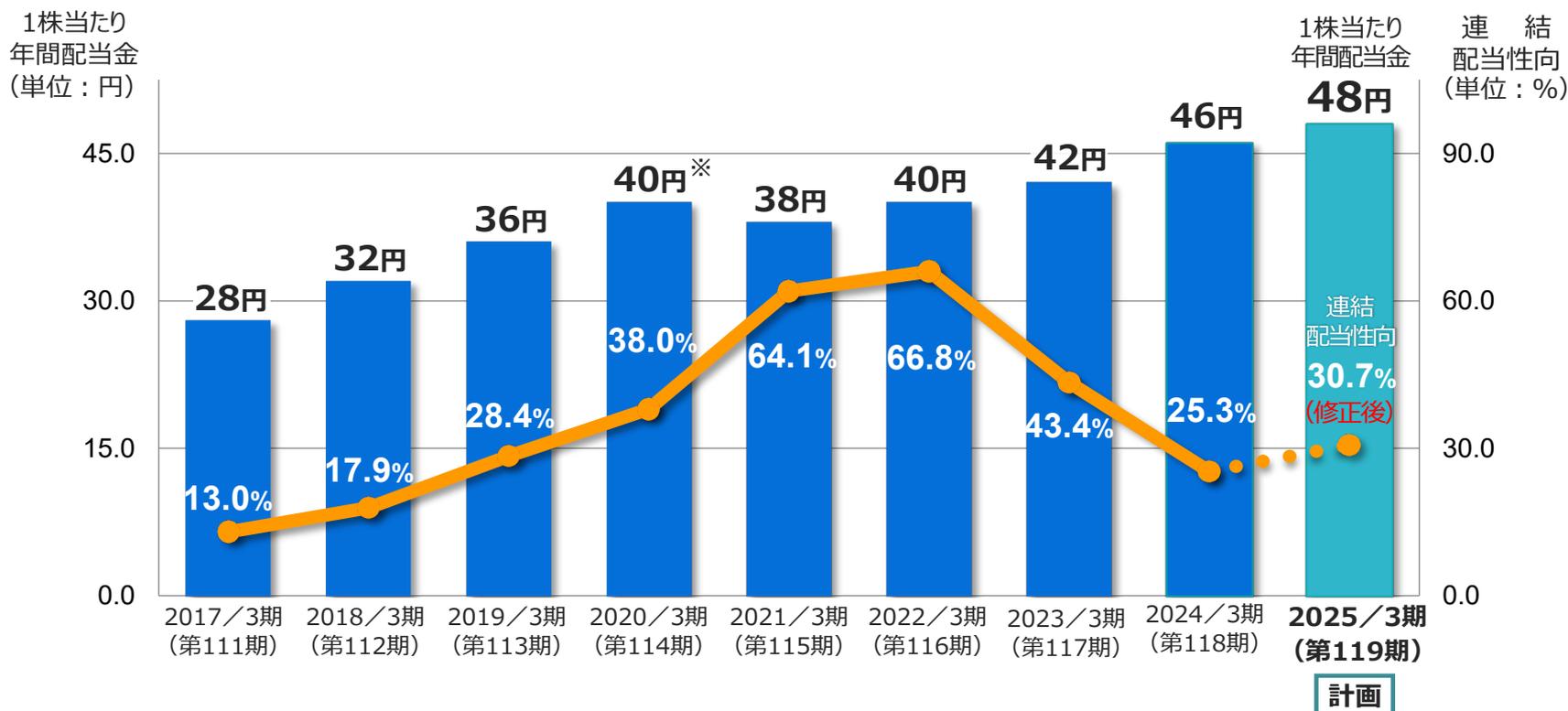
2024年3月期（第118期）には、中計想定ラインを越えていたものの
2025年3月期（第119期）の中期経営計画 業績目標値は修正



2. 2025年3月期 通期業績予想の概要

(4) 配当金 **利益還元**

安定配当をベースに、戦略的投資に向けた資金充実、財政状態・利益水準、配当性向（30%を目安）等を総合的に勘案し、決定（安定配当 + α ）



※2020/3期（114期）は創立90周年記念配当2円を含む（普通配当38円）

(参考) 次期中期経営計画の策定

- ・利益率の回復等を踏まえ、次期中期経営計画において投資計画を更新予定
- ・PBR向上を目指した資本・財務戦略を含め、次の時代を見据えた経営戦略の精度・深度を高めつつ、新たな中期経営計画を策定

【参考：設備投資額 推移（工事ベース）】

設備投資額

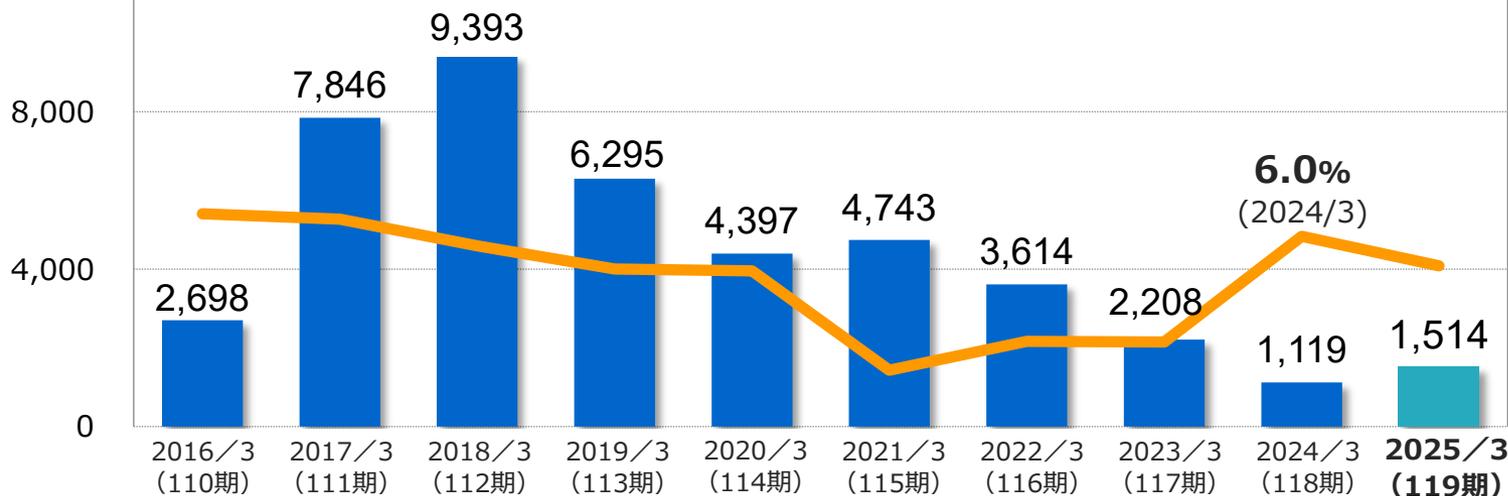
(単位：百万円)

12,000

営業利益率

(単位：%)

15



計画

3. 当社の事業概要

(1) 塗料関連事業 主要製品

■ 建築・構築物用塗料

内外装材をはじめ、塗り床材・舗装材、防水材、屋根用塗料等様々な機能性塗料の開発、販売を行なっています。

遮熱塗料は、屋根、外壁、屋上、バルコニーなど建物全般を遮熱し高い省エネ・節電効果を発揮します。



塗り床材「ユータックE-40」
(北海道新幹線函館総合車両基地)



速硬化性弾性FRP防水材「タフシール防水工法」
(坂の上の雲ミュージアム)



屋根用遮熱塗料「パラサーモン」
(サヌキ畜産加工協同組合)

■ 航空機用塗料

苛酷な環境から航空機の機体を保護する航空機用塗料「スカイハロー」は、民間航空会社をはじめ、日本国政府専用機や各航空会社の特別塗装機、さらには宇宙航空研究開発機構の月周回衛星「かぐや」にも採用されています。



AIR DO 特別塗装機 ベア・ドゥ 北海道JET



宇宙航空研究開発機構
「月周回衛星かぐや」

3. 当社の事業概要

(1) 塗料関連事業 主要製品

■ 請負工事（集合住宅大規模改修工事）

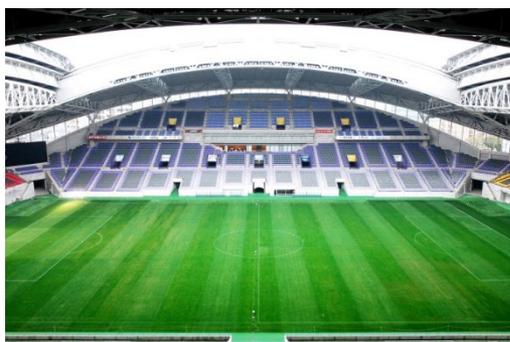
子会社 ニットクメンテ(株)において、マンション等の大規模改修、修繕工事を請負

＜ ニットクメンテ株式会社 ＞

- ・事業所 東京・大阪・名古屋 他（全国8拠点）
- ・売上高 約88億円（2024年3月期）
- ・株主 当社、積水アクアシステム(株)



■ 建築・構築物用防音材



制振材「イーディケルM-3500SS」が採用された「ノエビスタジアム神戸」(ドーム屋根部分)

■ 鉄道車両用防音材



九州新幹線N700系「さくら」

■ DIY用製品



DIY用製品

3. 当社の事業概要

(2) 自動車製品関連事業 主要製品

■ 吸音材・遮音材

※「RIETER ULTRA LIGHT™」は Autoneum Management AG の登録商標です



自動車用吸音材「フードインシュレーター」



自動車用吸音材
「トランスミッション
インシュレーター」



超軽量防音システム部品
「RIETER ULTRA LIGHT™」



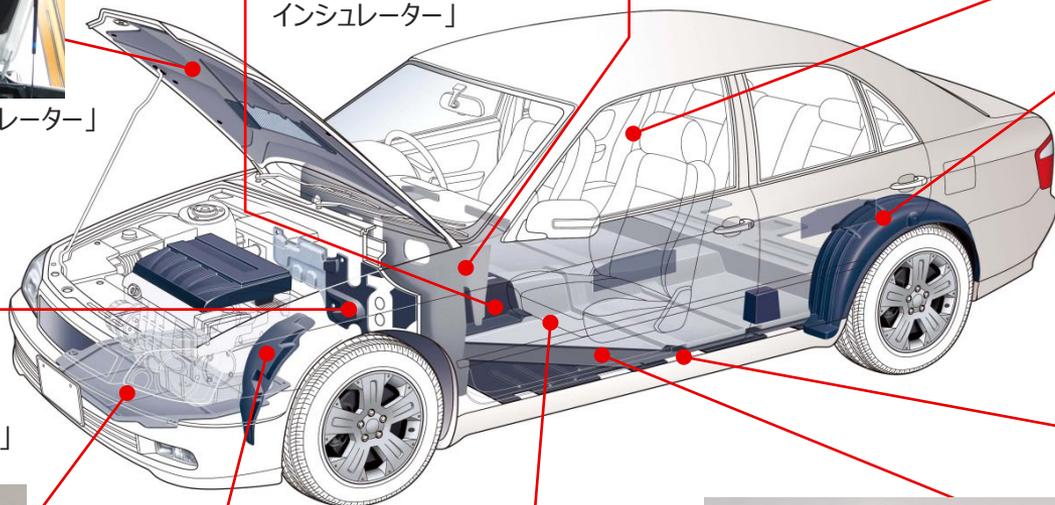
自動車用
吸音材
「吸音ダクト」



自動車用吸音材
「リア吸音
ホイールハウスライナー」



自動車用吸・遮音材
「ダッシュアウターインシュレーター」



自動車用吸音材
「吸音フロア
アンダーカバー」



自動車用吸音材
「吸音エンジンアンダーカバー」



自動車用吸音材
「フロント吸音
ホイールハウスライナー」



自動車用吸音材
「ヒートインシュレーター」

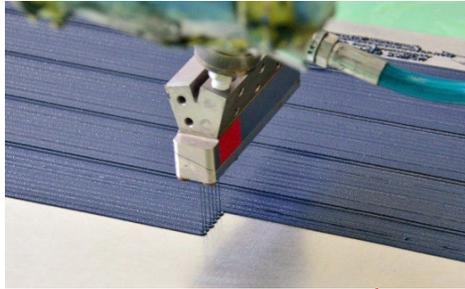


自動車用吸・遮音材「フロアカーペット」

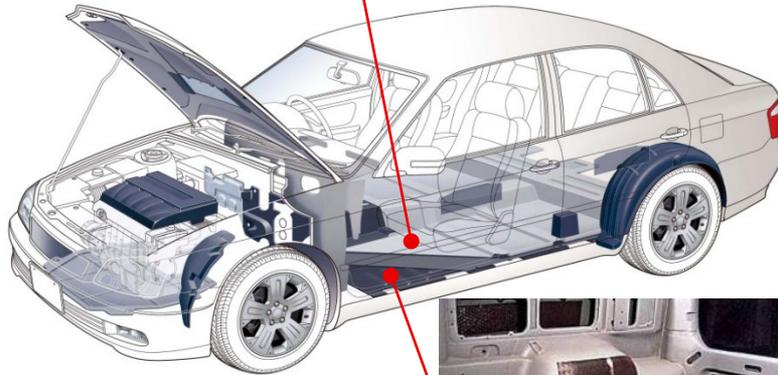
3. 当社の事業概要

(2) 自動車製品関連事業 主要製品

■ 制振材・防錆材



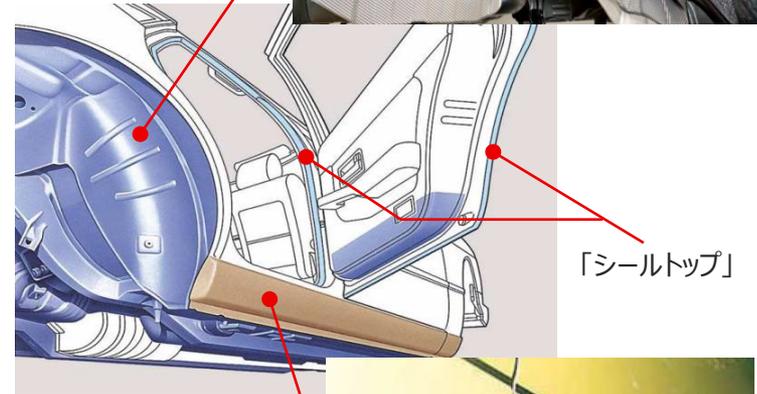
塗布型制振材
「NTダンピングコート」



自動車用制振材「メルシート」

自動車用防錆材・シーラントの 代表的な塗装部位

「NTガードコート」
(PVC系)



「シールトップ」

「NTガードコート」
(PVC系・ウレタン系)



4. 今後の成長戦略

中期経営計画の基本戦略

(2022年3月期 ~ 2025年3月期)

- (1) 国内事業の安定的な収益基盤の構築
- (2) 「技術のニットク」の強化と新技術・新製品開発
- (3) グローバル展開の強化
- (4) D X (デジタルトランスフォーメーション) 推進
- (5) サステナビリティ (持続可能性) 経営の推進

4. 今後の成長戦略

(1) 国内事業の安定的な収益基盤の構築

■ 事業の再構築

(成長部門への資源の再配分、不採算部門の集約)

平塚工場の自動車製品事業は終了／集約し、塗料専用工場として次のような事業投資を行うことで収益基盤構築、企業価値向上を目指す。

塗料

■ 一貫した生産体制による生産合理化／収益改善

(工場の再配置、製造部門の集約、工場内動線の最適化)

- ・塗料用エマルジョン樹脂の製造、及び塗料製品の一貫生産を目指し工場の再配置を実施。
- ・他事業所の製造部門を移管し、生産効率化とコストダウン。
- ・製品の製造、原料／製品倉庫、集荷場等の動線を最適化。

4. 今後の成長戦略

(1) 国内事業の安定的な収益基盤の構築

自動車製品

■ 新工法／生産工程合理化による収益改善

(主力製品ダッシュインシュレーターの生産能力／投資効率向上)

- ・新工法の量産ライン導入を推進中（FY25導入、FY26量産適用）。
- ・生産能力増加／占有面積縮小による投資効率向上に加え、工程改善による省人化の実現を目指す（各要素技術はFY26から順次量産適用を開始）。

■ 生産集約による効率化

(自動車用制振材の生産を協力企業に集約)

平塚工場における制振材の生産を2024年3月31日をもって計画通り完了。生産を協力企業に集約し、生産・輸送の両面で効率化を実現。



4. 今後の成長戦略

(2) 「技術のニツク」の強化と新技術・新製品開発

塗料

■ 環境配慮型／機能性（高付加価値）塗料へのシフト

- ・防水材：特定化学物質、モカ、鉛触媒を使用しない製品へのシフト。
- ・塗り床材：帯電防止塗り床材のリニューアル、および新製品開発。
- ・航空機：米軍規格、ボーイング規格に適合する航空機用塗料の開発。

自動車製品 【 部品領域 】

■ 電動車NVマネジメント + 新規音響コンセプト立案

（車両NVマネジメント技術（強み）を活かし、部品ポートフォリオを拡大）

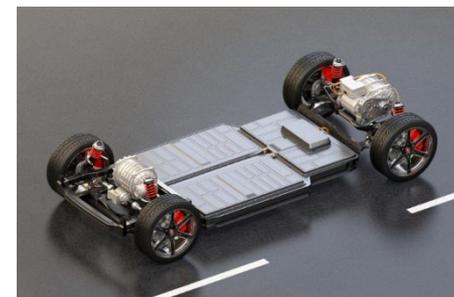
- ・ニーズの高まるタイヤノイズ対策として新規ホイールハウ斯拉イナーおよびモーターノイズ対策として eAxle カバーの開発を推進。
- ・電動車特有の新規車体構造（セルトウーシャシ）の変化に対応した新規制振技術の開発。
- ・今後、需要が高まるとみられるHV、P-HEVの市場調査を開始。

N V : 「Noise・Vibration」の略。騒音・振動のこと。

4. 今後の成長戦略

(2) 「技術のニツク」の強化と新技術・新製品開発

自動車製品 【 部品/塗材領域 】



■ BEV化／易解体性ニーズに対応する新製品開発 (中周波数域 防音対策製品)

- ・BEV化による中周波数域への対策ニーズ、ELV製品リサイクル意識の高まりによる「易解体性」ニーズに対応する開発製品の顧客提案を開始。

■ 新商品開発：バッテリー用副資材 (熱マネジメントを目的とした、BEV車用バッテリー副資材の開発を推進)

- ・既存機能技術を融合させた独自の配合技術により、顧客ニーズに対応。
- ・断熱性を有する商品：2024年に開発完了。特許化検討中。
- ・伝熱性が高い商品：2024年内に顧客提案を推進、売上10%アップを目指す。

BEV：「Battery Electric Vehicle」の略。バッテリーの電気のみを使って走る車（電気自動車）のこと。
ELV：「End of Life Vehicle」の略。廃棄車両のこと。EUではELVが環境に与える負荷を低減するため、目標リサイクル率等を定めるELV指令がある。

4. 今後の成長戦略

(3) グローバル展開の強化

塗料

■ 海外マーケットの新規開拓

主に中国・東南アジア向けに、防水材、塗り床材をはじめ、多様なニーズに即した高付加価値製品の販売を強化。

自動車製品

■ アジア圏JVへの投資拡大を検討

日系OEMによる生産の拡大／強化に向けた動きへの対応。

■ カーボンニュートラルに向けた商品連携

- ・Autoneum社（部品）
リサイクル材を積極利用した低CO₂排出製品の展開。
- ・EMS-EFTEC社（塗材）
低エネルギー／アッセンブリーショップの商品強化。



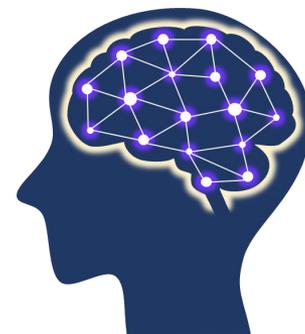
4. 今後の成長戦略

(4) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進

塗料

■ AIを活用した業務効率の改善（塗料配合の検討）

- ・電子実験ノートを活用することでノウハウのナレッジ化を推進し、技術継承への活用を図りつつ、データ解析環境を構築。
- ・既存技術のデータベースにAIを組み込むことで開発プロセスを効率化、削減した工数を活用し、業務の「質の向上」を目指す。



自動車製品

■ AIを活用した業務効率の改善 （イノベーションのための人財育成と業務効率改善の推進）

- ・2024年度、防音材構成を予測するAIの内製アプリ化に成功し、運用を開始。性能予測業務の工数30%削減を見込む。
- ・AI内製アプリ作成の知見を活かし、生産効率化に向けた新規アプリを検討中。

4. 今後の成長戦略

(5) サステナビリティ（持続可能性）経営の推進

塗料

■ 環境配慮型製品の拡充

- ・CO₂排出量削減に寄与する遮熱塗料の強化・拡充。
- ・風力発電用塗料の改良。
- ・滑雪性を有する塗料の研究。



4. 今後の成長戦略

(5) サステナビリティ（持続可能性）経営の推進

自動車製品



■ 地産地消プロジェクト（中部経済産業局、トヨタ自動車との連携）

- ・市場のPCR材利用の他に、廃車由来の材料を水平リサイクルする調査検討を開始。



シートクッション
試作廃棄
捨て打ち材



シートファブリック
裁断くず



(ウレタン破砕サイズの確認)



フロア下吸音材



▲中部地区 自動車用製品工業端材の活用事例

■ 新製品開発（合成繊維サステナビリティに向けた独自技術の展開）

- ・合成繊維サステナビリティに特化した自社特許技術製品の顧客提案を開始。
- ・リサイクル率の高い素材を用いたモノマテリアル化技術により、高いPCRプラスチック使用率とLC-CO₂低減を実現。

4. 今後の成長戦略

(5) サステナビリティ（持続可能性）経営の推進

全社・共通

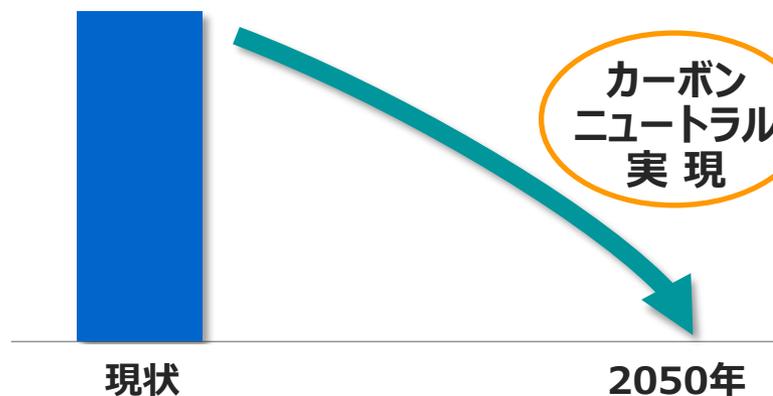
■ カーボンニュートラルの実現

カーボンニュートラルプロジェクトを立ち上げ
2030年度のCO₂排出量半減、2050年に
全ての製品と企業活動を通じた
カーボンニュートラルの実現を目指します。



愛知工場に導入した太陽光発電設備

【 CO₂排出量削減のイメージ 】



- ・省エネ、高効率化
- ・再生可能エネルギーの導入と調達
- ・燃料の転換
- ・技術革新 等

4. 今後の成長戦略

(5) サステナビリティ（持続可能性）経営の推進

■ 全社・共通

■ 人財育成の強化、「『働きがい』改革」

持続可能な成長を支える人財育成の強化（研修・教育機会の拡充）、『働きがい』のある活力に満ちた職場づくりを推進（多様性と多様な働き方）。

■ ガバナンスの強化

東証コーポレートガバナンス・コードに定められた各原則の趣旨を踏まえた施策を推進し、グループガバナンスの強化、全社一体での成長を実現。

■ CSR／サステナビリティ重視の施策を推進

コンプライアンス遵守体制の確立とともに、サステナビリティ経営推進に向けた方針策定、マテリアリティ（重要課題）の特定とそれに基づく経営体制確立、統合報告書発行等に注力しています。

<参考資料>

1. 会社概要
2. 主要な経営指標の推移

1. 会社概要

(1) 会社概要

- 商号 日本特殊塗料株式会社
(NIHON TOKUSHU TORYO CO., LTD.)
- 本社 東京都北区王子3丁目23番2号
- 創業 1929 (昭和4) 年6月1日
- 資本金 47億5,308万円
- 発行済株式数 23,611,200株
- 連結従業員数 1,166名 (2024年9月末時点)
※臨時雇用者を除く

1. 会社概要

(2) 役員・執行役員 <監査役設置会社>

2024年9月時点

■ 取締役

取締役会長
最高経営責任者(C E O)

田谷 純

代表取締役
社長執行役員
最高執行責任者(C O O)

遠田比呂志

取締役
専務執行役員

鈴木裕史

取締役
専務執行役員

中村 信

社外取締役

奈良道博

社外取締役

矢部耕三

■ 監査役

常勤監査役

川名宏一

社外監査役

高橋善樹

社外監査役

松藤 斉

■ 執行役員

専務執行役員

山口久弥

常務執行役員
最高財務責任者(C F O)

力武洋介

執行役員

桜井雅英

執行役員

廣瀬茂雄

執行役員

土屋信博

執行役員

野見高司

1. 会社概要

(3) 社是・経営の基本理念

社是

創意工夫

経営の基本理念

卓越した技術と製品により社会に貢献する。

株主の利益を尊重し、社員の人格を大切にする。

環境と共生し、国際標準に準拠しつつ、
永遠の発展を目指す。

1. 会社概要

(4) 経営の基本方針・長期ビジョン

経営の基本方針

創意工夫を社是とし、独自の技術と製品をもって
顧客の要請と信頼にこたえる。

世界に活躍する企業として総合開発力を結集し、
新製品・新需要の開発に挑戦する。

人材の育成・雇用をはかるとともに、一切の無駄を省き、
高生産性・高収益を追求する。

長期ビジョン

塗料と防音材を柱に、快適環境を創造し、
社会に貢献する会社でありたい。

世界中から必要とされ、信頼される“**nittoku**”へ
さらに飛躍させたい。

働きに応じて評価され、働き甲斐のある
活力に満ちた会社を創り出そう。

1. 会社概要

(5) 国内主要事業所

■ 本社・研究開発拠点



本社



開発センター



塗料技術棟

■ 国内6工場



平塚工場



静岡工場



愛知工場



広島工場



九州工場



東九州工場



1. 会社概要

(6) 沿革①

■ 創業～塗料事業の歩み

- 1929年 日本特殊塗料合資会社として、航空機用塗料の開発からスタート
- 1930年 「T・T（テー・テー）金属用塗料」を開発
- 1951年 セメント瓦用塗料「スレコート」を開発
- 1966年 屋根用塗膜防水材料「プルーフロン」の開発を皮切りに建築市場に参入
- 1973年 塗り床材「ユータック」を開発
- 1975年 航空機用「ポリウレタン塗料」が日本航空ジャンボ機に採用される
- 1983年 超高弾性壁面防水化粧材「ハイプルーフ」の開発で技術のニツクを印象づけた
- 1995年 「スカイハロー・トップコートFLV」を開発
- 1999年 「スカイハローE」H-Ⅱ ロケットに採用
- 2001年 屋根用遮熱塗料「パラサーモ」を開発
- 2011年 光触媒塗料と同等の超低汚染性の機能を持つ「シルビアセラティール」を開発
- 2012年 有機無機ハイブリッド系塗り床材「ユータックコンプリート」を開発
- 2013年 風力発電ブレード用「ウィンドハロートップコートF」を開発
- 2014年 環境対応型建築用塗膜防水材料「プルーフロンエコDX」を開発
- 2017年 学校環境衛生基準等を満足する「プールエースECO」を開発



1. 会社概要

(6) 沿革②

■ 自動車製品事業への参入と塗材・吸遮音材技術の確立

- 1953年 自動車用防音・防錆塗料「ニットク・アンダーシール」を開発
- 1964年 自動車用制振材「メルシート」を上市、防音材メーカーとして歩み始める
- 1967年 防音材メーカー、マテック・ホールディング社（現オートニウム社）と技術提携
- 1968年 吸音材「タカ」を開発
- 1969年 遮音材「タカポール」の開発により、自動車用防音材分野の基礎技術を確立
- 1970年 自動車用遮音材「ダッシュインシュレーター」を開発
- 1978年 自動車用吸音材「ボンネットライナー」を開発
自動車用防錆材「NTガードコート」を開発
- 1985年 自動車用ワックス「ビチューメンワックス」を開発
- 1988年 エムス・トーゴー社（現エフテック社）とクロスライセンス契約
- 2001年 超軽量防音システム部品「RIETER ULTRA LIGHT™」※
の開発により、従来比30～60%の軽量化を実現
- 2003年 自動車用吸音材「ホイールハウスライナー」を開発
- 2005年 自動車用塗布型制振材「NTダンピングコート」を開発
- 2010年 自動車用吸・遮音材「フロアカーペット」・「フロアアンダーカバー」を開発
- 2016年 フロアカーペットのバリエーションに「I F P」工法、
「RIETER ULTRA LIGHT™」※ のバリエーションに「H A」技術を導入
- 2022年 自動車用シーリング材「シールトップ（2液プレゲルタイプ）」を開発
- 2023年 当社の防音材製造で発生するプレコンシューマー材を活用し、防音かさ上げ材を開発



※「RIETER ULTRA LIGHT™」は、Autoneum Management AG の登録商標です

1. 会社概要

(7) グローバル展開 (自動車製品関連事業)

■ 沿革

1967年  **Matec Holding AG** (現:Autoneum Holding AG) と技術提携

1986年  **UGN, Inc.** を米国に設立

1994年  **SNC Sound Proof Co.,Ltd.** をタイに設立

2003年  日特固 (広州) 防音配件有限公司 (**ANG**) を中国に設立

2004年  天津日特固防音配件有限公司 (**TAN**) を中国に設立

2005年  **SRN Sound Proof Co.,Ltd.** をタイに設立

2008年  Rieter Nittoku Automotive Sound Proof Products India Pvt.Ltd. (現:Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt.Ltd.) (**ANIS**) をインドに設立

2010年  武漢日特固防音配件有限公司 (**WNA**) を中国に設立

2012年  **PT.TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM (TNA)** をインドネシアに設立

2013年  **UGN, Inc.** がメキシコに工場を新設 (2017年に工場移転)

2019年  武漢日特固汽车零部件有限公司 を中国に設立 (**WNA** 子会社)



▲ スイス Unikeller 研究所(当時)



▲ United Globe Nippon, Inc. (当時)



▲ SNCサウンドブルーフ



▲ 日特固(広州)防音配件有限公司(ANG)



▲ 天津日特固防音配件有限公司(TAN)



▲ サミット・リエタ・ニットク
サウンドブルーフ (SRN)



▲ オートニウム・ニットク・サウンドブルーフ
・プロダクツ・インド(ANIS)



▲ 武漢日特固防音配件有限公司(WNA)



▲ PTタフインド・ニットク・オートニウム
(TNA)



▲ UGN Mexico

1. 会社概要

(7) グローバル展開 (自動車製品関連事業)

■ グローバル・ネットワーク (現状)



連結子会社

武漢日特固防音配件有限公司 (中国)
武漢日特固汽車零部件有限公司 (")



持分法適用会社

天津日特固防音配件有限公司 (中国)



持分法適用会社

UGN,Inc.本社 (アメリカ)



持分法適用会社

日特固(広州)防音配件有限公司 (中国)



連結子会社

PT. TUFFINDO NITTOKU AUTONEUM (インドネシア)



持分法適用会社

SNC Sound Proof Co.,Ltd. (タイ)



持分法適用会社

SRN Sound Proof Co.,Ltd. (タイ)



非連結子会社

Autoneum Nittoku Sound Proof Products India Pvt.Ltd. (インド)



1. 会社概要

(7) グローバル展開（自動車製品関連事業）

■ グローバルパートナー

< Autoneum（オートニウム）社 >

① Autoneumとの技術提携関係（防音部品）

1967年以来、50年を超えるアライアンス

- グローバル戦略
- 音響解析技術・評価技術・製品開発の共有
- 北米はじめアジア各国で当社とJ Vを設立

② Autoneum社の概要

- ・上場企業（SIX Swiss Exchange）
- ・純売上高 2302.3 million CHF（約4,000億円）
- ・スイス本社、グローバル展開（進出先25カ国）
- ・従業員数（グループ全体） 約16,500名
- ・世界でも有数の音響解析/評価技術と熱解析技術を有し
自動車音響製品および耐熱対策の分野で
世界の自動車産業に製品等を供給する防音材トップメーカー

1. 会社概要

(7) グローバル展開 (自動車製品関連事業)

■ グローバルパートナー

< EMS-EFTEC社 >

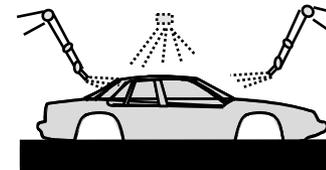
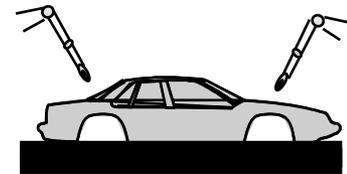


①EMS-EFTEC社の概要

- ・EMS-CHEMIE HOLDING AG の子会社 EMSグループ
- ・EMSグループ「High Performance Polymers」事業
売上高 約 2,200 million CHF* (約3,800億円) *EFTEC社含む事業全体
- ・スイス本社、欧州中心に 北・中南米、中国、タイ、インド 等へ進出

②EMS-EFTEC社の製品群

- ・板金、組立、塗装の各工程用の
接着剤、塗材、シーリング材、制振材



2. 主要な経営指標（連結）の推移

	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期
売上高 (百万円)	39,570	43,812	47,998	57,260	59,417	57,191	48,004	54,779	60,738	64,693
営業利益 (百万円)	1,629	2,961	3,162	3,286	2,973	2,827	858	1,482	1,631	3,905
経常利益 (百万円)	4,036	5,533	6,741	5,881	4,734	4,303	2,403	2,625	3,141	5,963
当期純利益 (百万円)	3,029	3,966	4,778	3,960	2,795	2,318	1,301	1,300	2,103	3,947
1株当たり 当期純利益 (円)	137.00	179.37	216.11	179.12	126.74	105.34	59.27	59.90	96.77	181.57
総資産 (百万円)	53,428	56,894	66,987	76,655	73,572	72,067	75,502	79,792	82,033	87,456
純資産 (百万円)	31,385	34,235	39,539	43,674	43,958	45,062	47,154	49,725	52,211	59,565
配当金 (円)	12.0	20.0	28.0	32.0	36.0	40.0	38.0	40.0	42.0	46.0
配当性向 (%)	8.8	11.2	13.0	17.9	28.4	38.0	64.1	66.8	43.4	25.3
自己資本比率 (%)	56.2	57.1	54.9	52.5	54.7	56.8	56.4	55.5	56.3	61.1
R O E (%)	10.9	12.7	13.8	10.3	6.9	5.7	3.1	3.0	4.6	7.9

【 I R に関するお問合せ先】

日本特殊塗料株式会社 経営企画室
(TEL : 03 - 3913 - 6136)

本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における業績予想および将来の予測等に関する記述は、資料作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

なお、本資料の内容は今後予告なしに変更することがあります。